健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

NEWS　RELEASE

平成２２年１月２８日

日清製粉グループ　第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第3四半期は売上高3，413億86百万円、経常利益238億59百万円。

[平成22年3月期第3四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長　村上　一平）の平成２２年３月期第３四半期連結累計期間につきましては、世界的な景気悪化の影響を受け、引き続き個人消費が低迷するなど市場環境が一段と厳しくなる中、消費者の皆様の家庭内調理志向の拡大や多様化するニーズに応えた新製品を開発・販売し、広告宣伝活動を積極的に推進するなど、各事業において売上げ拡大施策を実行しました。一方、コスト面に関しましては、一昨年９月の製粉東灘工場の本格稼働を始め、グループを挙げたコスト削減に取り組みました。そのような中、輸入小麦の政府売渡価格が昨年４月に平均で１４．８％、１０月にも平均２３％引き下げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

また、昨年４月に平成２２年度までの２か年の経営計画「日清製粉グループ行動計画　ＧＯ，２０１０」をスタートし、その目標達成に向けた取組みを各事業において着実に進めております。

この結果、第３四半期連結累計期間の業績は、小麦価格引き下げに伴う製品価格改定により売上高は３，４１３億８６百万円（前年同期比９６．４％）となりました。利益面では、食品事業の家庭用小麦粉・プレミックス等の主要製品及び海外事業等における出荷が好調であったこと、並びに製粉東灘・神戸工場統合効果を始めとした生産性向上施策の効果、各事業における固定費削減や購買・物流改善等のコストダウンにより、営業利益２１４億５０百万円（前年同期比１１９．４％）、経常利益２３８億５９百万円（前年同期比１１９．７％）、四半期純利益１４３億３百万円（前年同期比１３１．６％）となりました。なお、当期の中間配当につきましては、昨年１０月３０日にお知らせしましたとおり、当初予想より１円増配し、１株当たり１０円にて実施させていただきました。

[平成22年3月期通期連結業績予想]

国内景気は混迷の度合いを増しており、デフレ圧力の更なる高まりを受け個人消費は引き続き低迷が予想され、当社グループの主力事業である製粉事業及び食品事業におきましても、当面、厳しい環境が継続する見込みでありますが、各事業におきまして積極的な広告宣伝を継続するとともに強力に販売促進活動を推進し、出荷拡大に努めてまいります。特に製粉事業におきましては、国内市場におけるシェア拡大に向けた施策を強力に推進してまいります。食品事業におきましては、多様化する消費者の皆様の価値観に応える新製品を発売する等、ナショナルブランドメーカーとして消費者の皆様にとって価値のある商品を提供し、出荷拡大に努めてまいります。また、経営計画において策定した新製品・新技術の開発促進や新発想に基づくコスト構造の改革などの行動計画を着実に実行し、収益の拡大に努めてまいります。

その結果、平成２２年３月期の連結業績予想につきましては、売上高は４，４５０億円（前期比９５．４％）、営業利益は２５１億円（前期比１１５．４％）、経常利益は２７８億円（前期比１１２．９％）、当期純利益は１６２億円（前期比１１６．９％）としております。なお、期末配当につきましても、昨年１０月３０日にお知らせしましたとおり、中間配当同様に、当初予想より１円増配し、１株当たり１０円とさせていただくことを予定しております。これにより、年間の配当予想は２０円となります。

以　上